

編集後記

鄭 京姫*

今年の夏は確かに暑かった、いや、熱かったです。

連日、猛暑が続いたのに、いつの間にか冬の匂いがしてきました。はやい！

『言語文化教育研究』7号は、その暑かった夏の初めから始まりました。論文投稿の応募から、論文執筆、その投稿された論文については査読を行い、修正を施した上で原稿化し、最終的な編集にいたるまで、夏と秋、冬にかけて作業を続けてきました。

研究論文では、活動型日本語クラスに「活動を認識するための活動」を組み込むことの必要性を筆者自らが行った実践を振り返り、改善点をあげるなど、筆者らの問題意識がクラスの担当経験に根ざしているものがありました。

さらに、4本のうち、3本は、「考えるための日本語1」の参与観察を基にした論文が書かれています。その中には、学習者の自発的行為の発現メカニズムを明らかにし、学習者主体を再考したもの、学習者の自発的な発言を生む要因を考察したもの、初級クラスで「正しい日本語」を使わない担当者の教育観・言語観について、形容詞の使用というデータを軸に考察し、授業における発話データをもとに筆者が自身の教育観を内省した過程が描き出された論考など、すべての論文が大変興味深いですし、読む人にもいろいろな角度から考えさせられると思います。

近況では、言語文化教育研究室の在學生や修了生を問わず、言語文化教育研究に興味がある方からも日々の考えていることや成果、悩み、お便りが書かれています。

*言語文化教育研究室 博士後期課程2年

世界的な傾向なのかもしれないが、さまざまな立場の差異がかなり明確になってきていて、そして、その差異を考え、そこに意味を見出そうとしている人たちは、それぞれの人が何らかの対話を求めているという気がする。

言語教育におけるクレオール性というひとつのキーワードから、いろいろな問題が立ち現われてきた。おかげで旧植民地をめぐるという壮大な移動計画は今のところ宙に浮いている。パリはさまざまな人的交流の拠点としての相互文化性の宝庫だ。この街の魅力からなかなか抜け出すことができないでいる。

今回、僕が日本にいないということもあって、本誌の編集はすべて鄭京姫さんにやってもらった。さまざまな合議制・査読システムを確定してから、4号が経過したと思う。「近況」にも、それぞれの立場や意見が色濃く出るようになった。少し距離を置いた教育研究支援もまた楽しい。(ほ)

投稿規程

1. 本誌は、早稲田大学大学院日本語教育研究科言語文化教育研究室が、年 2 回、春・秋にインターネット上および印刷媒体で発行するものである。
2. 投稿者の資格等についてはとくに問わない。
3. 投稿原稿の内容は、タイトル「言語文化教育研究」に関するもので、未発表のものに限り、使用言語は日本語とする。
4. 掲載原稿の種別は、論文、教育研究ノート、書評、近況等とする。
5. 原稿の掲載にあたっては査読をおこない、その採否については編集委員会において決定する。
6. 原稿の執筆および提出方法については、別に定める「言語文化教育研究：執筆要領」に基づく。
7. 投稿締め切りは、原則として発行の 2 ヶ月前、2 月末日、8 月末日のそれぞれの正午（必着）とする。
8. 投稿は、上記 7. の締め切りまでに、下記 10. E-Mail によってのみ受け付ける。送信の際、E-mail 本文に、論文名、執筆者名、所属機関、連絡先（住所。E-Mail アドレス）を明記し、原稿ファイルを添付すること。ファイルの形式およびファイル名の書式は、別に定める「言語文化教育：執筆要領」に基づく。
9. 「言語文化教育研究：執筆要領」は、<http://www.gsjal.jp/hosokawa/>に掲載。
10. 原稿送付先、及び投稿に関する問い合わせ
早稲田大学大学院 日本語教育研究科言語文化教育研究室
〒169-8050 新宿区西早稲田 1-7-14-705
E-Mail : info@gbki.org

バックナンバーは、言語文化教育研究室 WEB サイトで閲覧可能です。

URL : <http://www.gsjal.jp/hosokawa/>

執筆要領

1. テーマ

タイトル「言語文化教育研究」に関するもの

2. 分量

論文一遍につき、40 字×40 字で 10 枚程度（図表・注・文献等を含む）

3. 書式

- 1) 投稿原稿は原則として、「A4 判横書きの Microsoft Word 形式」または「テキストファイル形式」とし、句読点（「,」「。」を使用）その他の記号は全角、欧文・数字は半角扱いとする。
- 2) 投稿原稿には、本文の前に概要（200 字程度）、キーワード（5 字程度）を付すこと。
- 3) 参考文献等には、著者別 50 音順にあげること。欧文その他の文献は、和文文献のあとにアルファベット順にまとめること。（詳細は、以下の URL を参照）<http://www.gbki.org/bibstyle.html>

執筆者（50 音順）

アンドラハーノフ・アレクサンダー	早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程
五十嵐まゆ	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程
大野のどか	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程
河上加苗	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程
古賀和恵	早稲田大学日本語教育研究センター契約講師
佐藤正則	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程
張珍華	アイオワ州 Grinnell College
鄭京姫	早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程
古川奈美	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程
古屋憲章	早稲田大学日本語教育研究センター契約講師
細川英雄	早稲田大学大学院日本語教育研究科
松井孝浩	早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程

査読協力者

A. アレクサンダー／市嶋典子／牲川波都季／田中里奈／鄭京姫／三代純平

言語文化教育研究 第7号

2007年10月30日

発行・編集 早稲田大学大学院日本語教育研究科
言語文化教育研究室
編集責任者 細川英雄
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-7-14-705
<http://www.gsjal.jp/hosokawa/>

DTP ケイ商店

印刷・製本 株式会社サナエ

© 2007 早稲田大学大学院日本語教育研究科 言語文化教育研究室

本書の一部または全部について、著作者から承諾を得ずに複写・複製・転載することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
